

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	正司豪 （ しょうじ ごう ）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	早稲田大学大学院人間科学研究科 修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 3 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本教育工学会研究会（熊本大学）
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	正司豪
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	卒業研究を通した学際的思考における研究観の形成過程
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。） 本研究の目的は、学際系学部 に所属する大学院進学者 8 名を対象に、大学入学以前から卒業研究を通して学際的思考における研究観・信念の形成過程を明らかにすることである。 インタビュー調査を実施し、複線径路等至性アプローチ（TEA）を用いた質的分析を行った、その結果、学際系学部生は、研究は学際的な知見を苦勞しながら調停するもの、もしくは、自身の専門性を少し越えて問題を解決していくものと捉える 2 つの研究観を形成していた。 また、径路進行の際にはタイムリミットが生じる中で、中高時代の探究学習の有無や過去の授業履修の傾向が、学際的思考の形成過程に影響することが示唆された。	

※無断転載禁止